

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）6

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43782

41
28

安川昌長
三ツツヤワ
大便合談

極秘

(記録用) 秘
録
用

沖繩問題に関する
安川局長、ライシャワー大使
等との合談(局長の事後の説明に基づく)
昭和41.4.19
米北(秘材)

4月18日安川北米局長は、霞友会館
において、ライシャワー大使(途中退席)、エロン
公使がザハーレン参事官と合談したと云う。
そのうち沖繩問題に関する部分の要旨
つぎのとおり。

要旨より

1. AA連帯会議に出席のため、中央へ
逃がれようとする沖繩住民に対し、旅客の
搭乗を拒否するとは、過去15年間に
拒否の例が10件程度に止まると
から見ても、ほとんど不可能である。しかし、
一行の主目的は、4月28日の沖繩復帰

GA-8

外務省

運動の日に参加するに思わ
れるが、これ(1回)に合意しては行か
ない。

旅客の搭乗を拒否する方向で検討
中であるが、あべたは、ザハーレンは、
これを承知した。なお、実際、多分、
本件の如き旅行先への制限は、違反者の
再渡航に制限する等 USCAR 及び GRI
の例で、違反者を penalize するに
なると見られる以外に方法は無いが、
あべたは、これを研究して見ると
答えた。

2. 船舶の旗の問題について、多分、本件を
どうにも議題に載せるべしとの pressure
があるが、さらに検討願った。 ~~答えた。~~

GA-8

外務省

ワシントンからの肯定的回答が、向に合致する
場合には、少なくとも、外務大臣の opening
statement で触れることは了承された、と
述べた。これに対し、先方は、これも国を
という感触であった。
(先方より)
3. 自治権拡大は、琉球政府への権限
の委譲の問題は、議題として、特掲したい
が、安井総務長官の opening statement
では言及することとしたので、承知ありたい旨
要請したのに対し、ザハールは、日本側が
は、協定委員会が機能の範囲を如何
に考へておられるかと反問した。よ、先方より、
機能拡大の際、行政権遷移
問題を除外する以外、~~明~~明白な

約束は、たはすであり、むしろ、漠然と
~~形~~形にしており、實際の運用を通じて
何でも取り上げられるという
国で行くという考へ方であったことを指摘
してあった。
さらに先方より、米側が希望するのであれば、
安井長官が opening statement で特定
事項に言及したことを以て、~~事~~当該の事
項を ~~事~~委員会が議題とすることを可否に
(次回以降)
ついでに米側の立場を prejudice したい旨
の約束をしても差し支えないと述べた。